

## 学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

## 【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 法文学部・2年

氏名: 石橋舞子

授業科目名	文化人類学実習1
1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250～300字程度)	
<p>研修先である韓国においては、「日本と韓国における誕生日プレゼント事情」をテーマに全北大学の学生への対面インタビューやアンケート調査を実施した。結果としては、日本と韓国では、モノに対する考え方の違いがあるということが分かった。誕生日プレゼントに関して、事前調査で行った日本人向けのアンケートでは「自分で考えて買うことが多い」という結果がであったのに対して、韓国では「相手に何が欲しいか聞いて買う」という場合が多かった。これについては、日本での調査で不十分な点も多かったため、追加調査を行おうと考えている。</p>	
2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250～300字程度)	
<p>韓国の学生との生活は、日本と違うところが多くあった。例えば、多くの学生が大学周辺のカフェを利用して、片手にアイスアメリカノやピーチティーを持っている人が多いという光景には驚いた。また、クレジットカードしか使えないコンビニが多くあり、韓国のキャッシュレス社会の浸透度の高さにも感じた。さらに料理に関して言えば、大鍋や大皿で一度に出されるものがほとんどで、日本のようにおひとり様用の料理などはあまりなく、終始賑やかな食事だったように感じた。そして、学生の多くは学生寮に住んでいる人も多かったというのも印象的であった。</p>	
3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250～300字程度)	
<p>研修先である韓国には、旅行で一度行ったことがあったのだが、そのときは観光地を巡ったため日本語表記のものも多く、あまり苦労はしなかった。しかし、今回は全州という地域で現地の学生との交流を通してコミュニケーションをする機会が多くあった。初めは翻訳機を通して互いに会話をしていたのだが、時間が経つにつれて相手の伝えたいことが理解できるようになっていることを実感し、とても快感を覚えるようになった。言語の基礎を学ぶことは非常に重要なことではあるが、「まずは相手に伝えようとする」というような意識が異なる言語のコミュニケーションにおいては大切であると思った。</p>	
4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250～300字程度)	
<p>今回の研修を通してつながった同世代の学生の多くは、人文学を専門としていた。わたし自身は、文化人類学を専攻としているため、これからの様々な研究において彼らの協力が得られるということは大きな成果であると思う。地域社会の発展のためには、さまざまな視点から物事を対処していくことが大切であると考えるが、観光などの分野においては異なる習慣や文化の違い、言語の壁などがあると思われる。そのような課題に対して、今回は「韓国」に絞って学んでいきたいと考えている。特に、鹿児島における韓国とのつながりについて学びを深め、将来的には韓国からの観光客を鹿児島に招き、地域の小・中学校の子どもたちとの国際交流会などを実施できればと考えている。</p>	

## 学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

## 【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 法文学部・2年

氏名: 内立輪 菜那

授業科目名	文化人類学実習1
1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250～300字程度)	
<p>研修先である韓国では、「日本と韓国における誕生日プレゼント事情」というテーマをもとに、韓国での誕生日プレゼント事情について現地の大学生にインタビューをさせていただいた。そして日本でおこなっていた事前調査と現地でおこなったインタビュー調査の結果をまとめ・考察し、日韓における誕生日プレゼントの違いについて見出した。実際に現地に行き現地の大学生に直接インタビューできたことで得られた成果はとても大きかった。インターネットで調べるだけでは分からない情報をたくさん知ることができた。また日韓の誕生日プレゼントの違いだけでなく、そこから日韓大学生のものの考え方の違いを見出せたことも大きな成果であると思う。</p>	
2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250～300字程度)	
<p>8日間という長い期間韓国に滞在させていただけたことで、日本と韓国の些細な文化や習慣の違いなどについて知ることができた。日本と韓国は、国の位置が近かったり、気候が似ていたり、かつて歴史上で日本と深い関係があったりで基本的に文化などは似ているように感じた。しかし長く韓国人大学生と一緒にいると食事マナーや女性・男性の考え方が違ったりした。例えば、多くの料理が個々ででくるといよりもむしろ大皿で出てきてとりわけ合う文化だったり、少し料理を残すことが礼儀だとされる文化だったりが見られた。また、日本ではKPOPがとても流行しているが、それと同じように韓国でも日本のアニメなどが人気だということもわかった。</p>	
3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250～300字程度)	
<p>研修前と後で、コミュニケーションの積極性が変化したと思う。私は大学1年生の時に韓国語の授業を履修していたが、韓国に行くとすぐの時は自分の拙い韓国語を話すのが怖くて、ずっと通訳さんに日本語で話しかけてそれを韓国語に翻訳してもらっていた。しかし、現地の大学生が私の拙い韓国語も一生懸命聞き取ろうとしてくれたため、日本に戻る頃には自分から直接韓国人に、積極的に韓国語で話しかけるようになっていた。韓国実習を通して、失敗を恐れずに積極的に異文化の方とコミュニケーションを取る力が身についたのではないかなと思う。</p>	
4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250～300字程度)	
<p>今回の韓国での実習を通して、文化人類学の研究を深く進められたというのはもちろんだが、それに加えて異文化の人々と繋がることの楽しさを感じられた。また、ただ楽しいというだけではなく、学びや発見も多かった。これからの社会では、異文化コミュニケーションを大切にし、異文化と繋がって協力していくことが求められる社会になっていくと思う。今回の経験を積めたことで、もっと外国語を勉強しようと思うきっかけになれたので、残りの大学生活の間に第2・第3外国語の勉強に励んで、それらを習得し、将来は世界と繋がる自分になりたいと思う。</p>	

## 学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

## 【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 法文学部・2年

氏名: 桐山 幸

授業科目名	文化人類学実習1
1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250～300字程度)	
<p>研修先の韓国では、文化人類学の調査として3人のグループで日韓の贈与文化についての調査を行った。現地大学生へのインタビューを中心とした調査で、興味深いデータをいくつも得ることができ、日韓の贈与文化のちがいをとらえることができた。グループメンバーと共に前期の授業から練ってきたテーマや調査計画を、現地で確実に実行に移すことができた。また、現地で得たことをもとにインタビュー項目を変更したり追加調査を行ったりなど柔軟に対応することもできた。最終成果発表では、現地の大学生と先生からフィードバックをいただき、今後の調査の方針も明確にすることができた。</p>	
2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250～300字程度)	
<p>現地での生活を体験して、自分が考えていた以上にさまざまな点で日本とちがいがあり驚いた。例えば、韓国ではカード決済が主流であるため現金を出すシチュエーションがほとんどなかったことや、トイレトペーパーを便器に流さずゴミ箱に捨てることなどである。韓国は日本と地理的に近い国であるためあまりちがいはないだろうと考えていたが、実際に現地で生活してみるとたくさんのちがいを発見することができ面白かった。しかし反対に、現地の学生とアニメや音楽などの共通の話題で盛り上がり意見が合ったりした際には、国がちがっていてもみんな同じ人間なのだと感じられた。</p>	
3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250～300字程度)	
<p>研修前と研修後の自身の変化や成長として私が感じているのは、これからの大学生活や人生に対するモチベーションが上がったということである。海外に出てみてもっと学びたいと思うことが増えたのに加え、現地の大学生の生活や頑張りを実際に見てよい刺激をもらった。また、私は韓国語を少し話せたため、海外の人と直接コミュニケーションをとれたことに大きな喜びを感じたことから、語学勉強に対するモチベーションもかなり上がった。語学をさらに頑張る、もっと広い世界を見てみたいという気持ちも生じており、これからの大学生活や人生における目標が自分の中で前よりも明確になったと感じている。</p>	
4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250～300字程度)	
<p>地域社会の発展に寄与するため、私はこれから、広い視野を持った人間になるための努力をしていきたい。私は、以前から九州の観光業の発展に携わりたいという目標があり、広い視野を持って多角的な視点から九州の価値を創造したいと考えている。そのためには、まず、自分が広い視野を持った人間になるべきであると考えている。今後は、今より文化人類学について深く学んだり、語学を伸ばしさまざまな人と直接コミュニケーションをとったりすることによって、多角的な視点で物事をとらえ考えられる人間になり、地域社会の発展に寄与できる人材へと成長したいと考える。</p>	

## 学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 法文学部2年

氏名: 時松杏奈

授業科目名	文化人類学実習1
<p>1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>今回の実習において、私たちのグループは韓国における食事の取り分け方やとりわけ役となる人物に着目し、現地での観察調査やインタビュー調査を行った。その結果、食べ物の取り分け行為が発生する状況において取り分け役には、食事の席にいる年少者になる傾向があることがわかった。また、肉を焼く行為が伴う料理では、父親や彼氏が調理役になりやすいという情報を得ることができ、取り分け行為とジェンダーの関わりがあるのではないかという考えに至った。しかし、先生方から調査方法や今後の調査展望への指摘もいくつかいただいた。今後はそれらの指摘も念頭におきながら、現地調査で得た情報を最大限活用して調査を進めていきたい。</p> <p>2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>韓国に滞在して最も記憶に残っていることはトイレの使い方についてである。韓国のトイレはトイレットペーパーを便器に流せないものもあり、使用済みペーパーを捨てるためのくず入れが備え付けられているトイレが多かった。しかし、トイレは日常生活のなかで必ず使うものなので、トイレを使用しているときは無意識下での行動が多く、私は日韓のトイレの使用法の違いに慣れるのにかなりの時間を要した。その土地の文化や方式に従おうと思っても、トイレや食事など日頃の習慣となっている行為において「郷に入っては郷に従え」を実践することは想像以上に難しいことなのだ痛感した。</p> <p>3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>今回の実習を経て成長したと感じる点は、間違いを恐れずに外国語を話せるようになった点である。実習初日に韓国人学生の皆さんと食事をした際、私は正しい韓国語を話すことに囚われろくに会話を行うことが出来なかった。しかし、身振り手振りを交えながら楽しげに会話をしている班員の姿に刺激を受け、翌日からは自分が知っている韓国語だけでなくジェスチャーや英語なども交えながら積極的かつ文法の間違いを恐れずに韓国人学生の人と交流するようにした。その結果多くの韓国人学生と交流の機会を持つことができ、その中の数人とは現在もSNSを通じて連絡を取り合う仲になることができた。言葉の壁を恐れずに行動できるようになった点はこの実習最大の成長であると思う。</p> <p>4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>私は将来地元で就職して地元の発展に寄与したいと考えている。私の地元である大分県は観光業が盛んなことや留学生が多いことにより、街で外国人を見かけることが多い。外国人が多い環境であるため、大分県における地域社会を運営は外国人の存在に配慮する必要があるだろう。今回の実習を通して、同じアジア圏である韓国も文化や食べ物、考え方など様々な側面で日本との違いがあることや、人が異文化に適応することの難しさを実感した。この経験をもとに今後異文化理解や異文化共存についてもっと深く学び、自分の将来の肥しとしていきたい。また、今回の実習で培った積極性や韓国人学生の方々との繋がりを活かして、今後より多くの異文化に触れていきたいと考える。</p>	

# 学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

## 【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 法文学部2年

氏名: 若本流音

授業科目名	文化人類学実習1
<p>1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>研修先である韓国での学習内容及び自身の学習成果は、韓国の食事形態と食事を取り分ける際に年齢が大きく関係するということである。韓国の食事形態は、日本と違い、料理が大皿で出てくることが多く、それを取り分けて食べるという場合がほとんどである。韓国では、そういった料理を取り分ける際に誰がどのような要因で取り分けるのか調査した。成果としては、年齢や性別、社会的地位などが挙げられるが、そのなかでも年齢は大きく関係するという結果が出た。その原因としては、韓国の年功序列の文化などが挙げられたが、詳しい原因としては、今後の調査で韓国文化の背景について調べていきたいと考える。</p> <p>2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>韓国での生活を体験して得た気づきや学びは、韓国では日本のアニメや歌手などが多く知られ、その歌やアニメなどから日本語を覚えたりする韓国人が多いということである。実際に韓国人の方達と交流していくなかで、日本でも有名な歌手やアニメなどが韓国でも多く流行っており、その歌やアニメから日本語を覚えたり、学んだという話も聞くことができた。そのため、日本のアニメキャラクターなどもたくさん知っており、そのキャラクターグッズを持っている人も多くいた。このことから、日本のアニメや歌手は、韓国に大きな影響力があるのだと感じた。</p> <p>3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>研修前と後で自分自身が最も成長したと感じる点は、コミュニケーション力と積極性だと感じる。韓国という異国の地で、母国語である日本語がなかなか通じないなか、インタビュー時や食事を一緒にする際にかコミュニケーションを取ろうと知っている韓国語で話しかけてみたり、通じない場合は英語で試してみたりなど積極的に自らコミュニケーションを取ろうとすることができたと感じる。また、韓国人の方に韓国語を教えてもらったり、逆に日本語を教えたり、翻訳機を使いながら会話をしたりなど、研修前は韓国という場でコミュニケーションを取ることができるか不安があったが、韓国で過ごしていく中で、自分自身が段々と積極的になることができたと感じた。</p> <p>4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいことは、日本と韓国それぞれの文化と言語についてより深く学んでいき、伝えていくことである。今回実習で韓国という場に行き、現地の人と交流していくなかで、実習に会って、コミュニケーションを取ることで分かる韓国の文化や言語があると感じた。そのため、日本と韓国それぞれの現地で得られる文化や言語についての知識をもっと得て、韓国の知識を日本に伝え、日本の知識を韓国に伝えていきたいと感じた。この目標を達成するために、まずは日本の文化や言語をさらに深めることや、韓国の言語を習得し、文化について学ぶことが必要だと感じる。</p>	

## 学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

## 【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 法文学部2年

氏名: 小林翔ノ介

授業科目名	文化人類学実習 I
<p>1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>鹿児島大学と全州大学の共同研究として、私たち鹿児島大学生が全州へ行き、設定したテーマから韓国文化を文化人類学的視点で捉えた。我々の班では韓国の食文化に目を向け、「韓国における食事の取り分け役の決定要因」と題して韓国での食事を実際に観察しながら調査・考察した。今回の実習だけでは結論を導き出すことはできなかったが、韓国の食事の風景を実際に観察することで文献資料からだけでは得ることのできない貴重な事実を発見することができた。また、韓国のリアルな現状を見ることができ、自分の考え方を根底から見つめ直すことができた。</p> <p>2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>現地では、韓国の人と実際に触れ合うことでしか得られない学びを得ることができたように感じた。ネットで調べる中では韓国の人々は合理的な考えをする人が多く、少し無遠慮なところがあるように書いた記事を見かけることがあった。韓国語をほとんどうまく話せない私がそんな集団の中に馴染むことができるかかなり不安だったが、実際に韓国の方たちと会うと話に聞いていたような人とは全く違う優しい人たちばかりで、行動の端々に配慮が感じられて馴染みやすかった。韓国の方々の人物像をリアルに感じることができ、より研究の方面にも活かすことができたと感じた。</p> <p>3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>実際に韓国での生活を体験することで、より現地の方々に考え方を近づけることができたと感じた。たとえば、食生活の面でいえば韓国ではテーブル一杯にパンチャンという小皿のおかずがいくつも並び、メイン料理もいつも少し多いくらい出てくる。我々日本人は残してはいけないと思い、必死でその皿を空にしようとするが韓国人は何気ない顔で残して出ていく。そんな光景に戸惑いつつも、このような価値観のズレは実際に相手の文化に触れないと味わうことのできないものなのだと感じた。そして、文化人類学はこのような価値観のズレから発想を得て、疑問を解決していく学問なのだと改めて気付かされた。</p> <p>4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>私は鹿児島島出身ではないので鹿児島県で働いても、外部の人間である私が鹿児島県のためにできることはあまりないのではないかとすることもあった。しかし、今回韓国という全くの異文化に触れることで、外部の人間である自分が鹿児島県発展に寄与するためには自分が外部の人間として外からの視点で地域社会の発展を促進させられるのだと分かった。そのため、外からの視点を取り入れて地域振興が行えるように学習を進めていき、さらに視点を多角的なものへと変えていきたいと考えている。また鹿児島島についてより深く知り、生活の中で鹿児島島の長所や課題を見つけていきたいと思う。</p>	